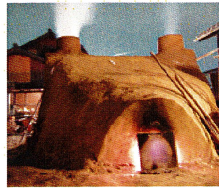


2014

三州だるま窯プロジェクト

だるま窯でのいぶし瓦焼成は昭和40年代頃まで行われ、最盛期には100基以上の窯が、西三河西南部で稼働していたが、その後現在の金属枠のガス焼成炉の登場により徐々に姿を消すこととなった。平成22年秋、地元有志によって「三州だるま窯復元プロジェクト」が結成され、大正時代に作られた唯一残っていた崩落寸前のだるま窯を修理復元し、30年ぶりに窯に火が入った。以降、年に一度メンテナンスを兼ねてイベント的に火入れを行っている。



主催：三州瓦工業協同組合

協力：丸栄製瓦、三州鬼瓦製造組合、高浜市やきものの里かわら美術館、鬼みち案内人の会、NPO法人高浜市南部まちづくり協議会

愛知県鬼瓦技能評価認定協議会、三州瓦伝統技術保存会

2014

三州だるま窯

プロジェクト

stage01: つくる

だるま窯で焼く鬼瓦を作ってみよう。

鬼師による指導のもと、オリジナルの鬼瓦を製作します。

日時 11月16日(日) 午前9時～正午

場所 かわら美術館 陶芸創作室(青木町9-6-18)

参加費 高校生以上 2,000円

中学生以下 1,000円

定員 25名(先着順) 小さなお子さまは保護者同伴。

持ち物 エプロン、タオル

申込み 三州瓦工業協同組合事務局

TEL: 0566-53-1420

stage02: つむ

作品を窯へ積み込む。(自由参加)

日時 11月29日(土) 午前9時～正午ごろ

場所 だるま窯(丸栄製瓦 田戸町5-1-21)

stage03: たく

いよいよ窯焚き!(自由参加)

夜間は近隣の方に迷惑にならないようにご配慮ください。

日時 12月6日(土) 午前9時～7日(日) 午前3時

場所 だるま窯(丸栄製瓦 田戸町5-1-21)

stage04: あける

窯の口を切り作品を取り出す。(自由参加)

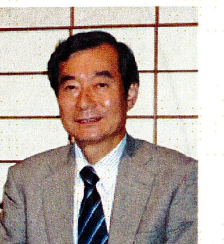
ワークショップの作品が完成。

日時 12月13日(土) 午前9時～正午

場所 だるま窯(丸栄製瓦 田戸町5-1-21)

高橋秋人瓦窯は、大正12年に構築された達磨窯である。平成8年7月に高浜市立郷土資料館を訪れた際、内藤金吾館長(故人)に紹介されて高橋さんの経営する丸栄製瓦工場をお訪ねした。門をくぐると、眼前に一基の達磨窯が現れ、見た瞬間、「これはすごい!」と直感した。亜欧堂田善が江戸後期に墨田川畔の今戸瓦の達磨窯を描いた「今戸瓦焼き図」の窯にそっくりだったからだ。土管煙突を付してはいるものの、こんな姿の達磨窯が、つい最近までに使われていたとは衝撃であった。

そして、3か月後には実測調査が行われ、その報告をもとに平成10年2月、「高浜市指定民俗文化財」の答申を受け、我が国最初の文化財指定達磨窯となった。現在、指定文化財となった近代達磨窯は3基(愛知県2基、香川県一基)であるが、そのパイオニアとしての高橋瓦窯は破格の存在である。



吹田文化創造交流館・旧西尾家住宅(重要文化財)

館長 藤原 学氏